中野区子ども・子育て支援事業計画の改定に向けた意見交換

— 地域ぐるみで進める子ども・子育て支援の検討 —

すべての人が子育てしやすい環境づくり — ワーク・ライフ・バランスの視点から

意見交換のための参考資料

中野区子ども・子育て会議 委員 藤田哲史

■ ワーク・ライフ・バランスとは

「仕事と生活の調和」と訳され、この10年ほどのあいだに

- ・ 少子化対策や子育て支援
- ・ 男女雇用機会均等や男女共同社会参画
- ・ 社会的なダイバーシティ（年齢や性別、国籍、人種等の多様性）の受容
- ・ 労働力の継続的な確保に向けた働き方の変革

など、さまざまな社会的側面で重要視されている考え方です。

日本では2007年（平成19年）12月、官民トップ会議での「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」および「仕事と生活の調和推進のための行動指針」の策定が大きな契機となり広く使われる言葉となりましたが、1985年成立の「男女雇用機会均等法」や1991年成立の「育児休業法」など、それまでの女性差別撤廃、男女機会均等や子育て支援へのさまざまな取り組みの流れを汲みながら、「ワーク・ライフ・バランス」として語られています。

内閣府の〈「仕事と生活の調和」推進サイト〉によると、「ワーク・ライフ・バランス＝仕事と生活の調和」が実現した社会は「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とされています。

■ 少子化対策や子育て支援にかかる「ワーク・ライフ・バランス」

内閣府の〈「仕事と生活の調和」推進サイト〉には「ワーク・ライフ・バランス」のある具体的な社会の姿として、「男性も育児・介護・家事や地域活動、さらには自己啓発のための時間を確保できるようになり、女性については、仕事と結婚・出産・育児との両立が可能になる」と記されています。

生活と調和のとれた働き方へ、社会全体が取り組むことで、例えば、妊娠・出産を経た女性の離職率軽減につながり、また現在、日本の夫婦の多くが感じているとされている「二人目の壁」の突破につながるなど、少子化対策にも多大なる効果を発揮すると言われています。

世界各国でも日本に先んじて様々な取り組みが為されています。

2013年にユニセフ・イノチェンティ研究所が発表した『レポートカード11 先進国における子どもの幸福度』での総合順位が1位となり、「世界一子どもが幸せな国」と言われたオランダでは、1982年に政労使の三者による「ワッセナー合意」以降、国を挙げて働き方の改革が進み、フルタイムワーカーとパートタイムワーカーの待遇格差を禁止する法律が定められたり、労働時間の短縮や延長に関わる労働者の権利を定めた法律が定められたりした結果、ワークシェアリングやテレワークなどの活用も積極的に進み、女性の就業率も大幅に上昇、さらに出生率も回復傾向にあり、2010年代は1.7前後を推移していると言います。

※ ユニセフ・イノチェンティ研究所『レポートカード11 先進国における子どもの幸福度』では、日本は指標不足で順位外。ただし関連指標を用いて比較、編集された『日本特別編集版』によると日本の総合順位は6位とのこと。

また2016年に発表された『レポートカード13 子どもたちのための公平性：先進諸国における子どもたちの幸福度の格差に関する順位表』では、総合1位がデンマークで、オランダは6位、日本は指標不足で順位外となっている。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉、考え方は、社会のさまざまな側面で重要視されているため、企業経営の文脈においてはマネジメントの手法として扱われたり、また個人々の労働の文脈においては効率的な働き方のハウツーとして扱われたりしています。そういった、いわゆる仕事＝ペイワークのあり方を変えていくことも、根本的なところで少子化対策や子育て支援に大きく寄与するはずですが。オランダの例に見るように、仕事＝ペイワークのあり方が変わることは、社会そして家庭に対する男女の共同参画の出発点になります。少子化対策や子育て支援の文脈で典型的な課題にされている「男性の家庭・家事への不参加」「女性の継続的な社会参画の困難さ」「家族の形成と自己実現の不均衡」などの解決にも、「ワーク・ライフ・バランス」という考え方は不可欠であるはずですが。

■ 地域の現状を知る

この地域において「ワーク・ライフ・バランス」を考えるにあたり、子どもを育てる保護者が実際にどのような働き方をしているのか、また働くことに対してどのような意識を持っているのかなど、地域の現状を知るために、子どもを保育所に通わせている保護者に対してアンケート調査を実施しました。

『中野区「子ども・子育て会議」参考資料作成のためのアンケート調査』

配布対象：中野区内の保育所に子どもを通わせている保護者

配布数：191通

回答数：89通

回答期間：2018年6月29日（金）～2018年7月9日（月）

調査票および集計結果については別紙にてご確認ください。

アンケート調査の結果より読み取れるいくつかの傾向をまとめると同時に、雑感を記します。

・「二人目の壁」という言葉が使われるほど、第二子、第三子への障壁が高いと言われていますが、今回のアンケート調査の結果においては、半数を超える人が第二子、第三子を持つと回答しています。

・勤務地は約9割の人が「中野区以外」としているため、「ワーク・ライフ・バランス」を考えるにあたっては、生活地と就労地とで自治体が異なることも考慮しながら、広い視点を持った取り組みが必要になると思います。

・就労目的に関しては一番大きなものとして「経済的な理由」が挙げられているものの、「自身のキャリアや自己実現のため」または「心身の健康のため」という前向きかつ意欲的なものもそれぞれ約4割ほどの回答を得られており、労働力および生産性の伸長を期するためにも、より働きやすい＝暮らしやすい社会環境を整える必要があると思います。

・保育所への子どもの送迎については、全体の平均で週3日ほどを自身が行なうという回答を得ています。しかし、これを父親、母親の別でみると、父親に関しては送＝2.8日／迎＝0.7日、母親に関しては送＝2.6日／迎＝4.6日となり、子どもの迎えについては母親に偏っていることが分かります。子育て支援における「ワーク・ライフ・バランス」の掲げる目標である「男性の育児参加」については、まだまだ課題があるのではないのでしょうか。

・子どもと過ごす時間については、特に就労している日の時間数を「いまよりも増やしたい」と回答した人が約9割、かつ後の設問にある自分のために過ごす時間についても「いまよりも増やしたい」と回答した人がこちらも約9割いるため、自身の思うように時間の配分をできていない人がほとんどだという傾向が見てとれます。

・「ワーク・ライフ・バランス」の掲げる目標に、働く人が「仕事以外の生活でやりたいことや、やらなければならないことに取り組みなくなるのではなく、両者を実現できる状態」を創出することがありますが、自分のために過ごす時間については、就労している日も休日も「いまよりも増やしたい」とする回答が約9割に上っており、「ワーク・ライフ・バランス」の掲げる目標の達成にはかなり遠い結果となったように思います。自分のための時間を削りながら、仕事や子育てに追われている状況が垣間見える結果となりました。

また自分のために過ごす時間の使いみちについて目立ったのが自由記述における「美容院・散髪」という回答で、約1割に上りました。美容院や散髪の時間すらとりづらい状態であるということからも、いかに自分のための時間が削られているのかが分かる結果となりました。

・就労先の会社などにおける「ワーク・ライフ・バランス」の取り組みについては、フレックスタイム制度や時差出勤制度の導入こそ約半数の回答を得られましたが、それ以外のテレワークやワークシェアリングについては、まだまだ導入が進んでいないことが分かる結果となっています。

また自由記述において「制度としては導入されているが、実際には運用されていない」という回答が見られるように、「ワーク・ライフ・バランス」の取り組みについては、制度の確立とそれを運用するための啓蒙活動が両輪で必要であると思います。

■ 地域での取り組み

アンケート調査の雑感としても記したように、中野区の住民については、生活地を中野に置きな

がら、他自治体に就労地をもつ人が多いと思われま。す。「ワーク・ライフ・バランス」とは「仕事と生活の調和」を目指す取り組みのため、それにかかる制度については、自治体を跨ぎ、国が主導しながら、「仕事」の主体である企業等が整備していくものになると思います。

ただし、生活地としての中野においても取り組みの支援は必要だと思ひます。アンケート調査の雑感としても記しましたが、制度が整備されていくなかで、その制度を広い視点をもってより良い方向に運用していくための啓蒙活動などについては、国の主導で大きく行なうよりも、個人々人が受けとめやすい形に落としこんだ、地域ごとの取り組みこそが必要になってくるように考えます。

中野区内での「ワーク・ライフ・バランス」についての啓蒙活動（一例）

中野区立の各図書館には、「個性ある図書館」作りのための展示書架が設けられています。

子ども・子育てにかかるテーマとしても、区立鷺宮図書館「子育て・教育」や区立南台図書館「生活・福祉・介護」など、各図書館個別に幅広いテーマが設けられています。

なかでも区立中央図書館については「ワークライフ支援」をテーマにした書架が館内中央に設けられ、2011年（平成23年）6月からは、司書による本の紹介を中心にしたリーフレットも継続的に配布されています。中央図書館によれば、展示替えや配布リーフレットを待っている利用者の方も多く、また系統だった蔵書が蓄積されてきていることから、この展示書架を入口として「ワーク・ライフ・バランス」を考えるきっかけづくりができていたとのことでした。

図書館の役割、蔵書の選定基準を考えると、このような企画展示を行なう書架をいくつも設けることは非常に難しいことであると思ひますが、中野区民が「ワーク・ライフ・バランス」を考えようとした際に、非常に有効な入口となるように感じました。

区立中央図書館については一例ではありますが、このような場を区内に設けていくことは生活地としての取り組みにおいては必要なことと思ひます。

また、例えば保育所や幼稚園、小学校など、区内の子育て家庭が集まるような場所で「ワーク・ライフ・バランス」についての講演会や座談会などを開催するなど、受け身ではない、積極的な啓蒙活動も重要であると考えます。

「働き方改革」という言葉とともに、国の大きな課題として取り上げられている「ワーク・ライフ・バランス」の考え方ですが、定性的な課題であり、また企業や個人々人に負うところの大きな課題であるため、実践として浸透していくにはまだまだ時間も労力もかかるものと思ひます。ただ先に挙げたオランダの例に見るように、「ワーク・ライフ・バランス」の考え方が浸透することで、少子化社会や子育て支援の問題に活路を見いだせる可能性も多分に秘めていると思ひます。

「子育てしやすい環境づくり」というテーマにおいては、自治体として、待機児問題の解決をはじめ、施設や制度の充足についての取り組みは、もちろん怠らずに進めるべきことだと思ひます。しかし一方で、より広い視点から見た「子育て“しやすい”環境」を作るためにも、理念のある取り組みも同時に拡大していってほしいと切に願ひます。

以上

【ご協力ありがとうございました】

- ・ アンケート調査：中野区内の保育所に子どもを通わせている保護者の皆さま
- ・ ヒアリング：中野区立中央図書館

【参考文献】

- ・ 内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
(<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>)
- ・ 日本ユニセフ「ユニセフ・イノチェンティ研究所とは」
(https://www.unicef.or.jp/library/library_lab.html)
ユニセフ・イノチェンティ研究所
『レポートカード11 先進国における子どもの幸福度——日本との比較 特別編集版』
(2013年)
『レポートカード13 子どもたちのための公平性：先進諸国における子どもたちの幸福度の格差に関する順位表』(2016年)
- ・ 小室淑恵『改訂版 ワークライフバランス 考え方と導入法』
(日本能率協会マネジメントセンター、2007年)
- ・ 樋口美雄・府川哲夫『ワーク・ライフ・バランスと家族形成 少子社会を変える働き方』
(東京大学出版会、2011年)
- ・ 駒崎弘樹『働き方革命——あなたが今日から日本を変える方法』
(筑摩書房、2009年)
- ・ 柴田悠『子育て支援が日本を救う 政策効果の統計分析』
(勁草書房、2016年)
- ・ 秋山開『18時に帰る 「世界一子どもが幸せな国」オランダの家族から学ぶ幸せになる働き方』
(プレジデント社、2017年)
- ・ 吉田大樹『パパの働き方が社会を変える！』
(労働調査会、2014年)

中野区「子ども・子育て会議」参考資料作成のためのアンケート調査 ご回答のお願い

在園保護者の皆さまへ

中野区の子育て環境をより良いものとしていくために、様々な観点より検討を行なっている中野区「子ども・子育て会議」には、当園に在園する保護者も委員として参加しています。

今回、中野区の子育て事業における指針である「中野区子ども・子育て支援事業計画」の改定に向けた取り組みにおいて、すべての人が子育てをしやすい環境づくりを進めるための一つの視点として“ワーク・ライフ・バランス”をテーマに置き、意見交換を行なうこととなりました。

つきましては、会議における参考資料を得るべく、在園児の保護者の皆さまに、アンケート調査へのご協力をお願いしたく存じます。

なおアンケート調査の結果につきましては、統計データとして取り扱いますので、皆さまの個別の事情や情報等を公にすることはございません。どうぞご安心ください。

ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2018年6月 中野区「子ども・子育て会議」委員

※ アンケートにつきましては無記名でのご回答をお願いいたします。

※ アンケートには保護者の方それぞれにご回答いただきたく、保護者の人数分の調査票をお渡しいたします。ぜひご協力をお願いいたします。

当アンケート調査は中野区「子ども・子育て会議」における参考資料作成のために行なっております。中野区が定期的に行なうアンケート調査と設問内容に重複がございますが、現在の状況にてご回答くださいますよう、お願いいたします。また本年度、秋ごろに中野区によるアンケート調査の実施が予定されており、対象の方におきましては重複して調査をお願いすることになる可能性がございますこと、どうぞご了承ください。

ご回答いただいた調査票につきましては7月9日（月）までに園玄関に設置の封筒へご提出ください

問1. 以下の質問にご回答いただく方の、お子さまとの続柄をお選びください。 [〇はひとつ]

1. 父親
2. 母親
3. その他（ ）

問2. お子さまの人数と年齢をお答えください。 [数字を記入]

- ・子どもは全部で（ ）人
- ・子どもの年齢はそれぞれ（ 歳 歳 歳 歳 歳 歳 ）

問3. ご回答いただく方ご自身の就労状況をお答えください。 [〇はひとつ]

1. 現在、フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない
2. 現在、フルタイムで就労しており、育休・介護休業中である
3. 現在、パートタイムやアルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない
4. 現在、パートタイムやアルバイト等で就労しており、育休・介護休業中である
5. 現在、自営業やフリーランス等で就労しており、育休・介護休業中ではない
6. 現在、自営業やフリーランス等で就労しており、育休・介護休業中である
7. 現在、就労していない
8. その他（ ）

現在、就労しているとお答えの方（問3で1～6をお選びいただいた方）にお伺いします。

問3-1. 勤務状況についてお答えください。

- 1) 週あたりの就労日数は () 日 [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な日数を記入]
- 2) 日あたりの就労時間は () 時間
[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]
- 3) 家を出る時間は () 時 () 分 [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]
- 4) 帰宅する時間は () 時 () 分 [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]
- 5) 休日の曜日は (月 火 水 木 金 土 日 シフト制なので固定されていない) [〇はいくつでも]
- 6) 勤務地は (中野区内 中野区以外の都区内 都内市部 都外) [〇はひとつ]
- 7) 勤務地までの通勤時間は () 時間 [数字を記入 ※1.5時間など単位を時間にして記入]

問3-2. 就労している目的、理由等をお答えください。 [〇はいくつでも]

1. 経済的な理由により
2. 自身のキャリアのため、自己実現のため
3. 就労することで心身の健康を得られるから
4. 社会的道義や義務感により
5. できることなら就労したくない
6. その他 ()

現在、就労していないとお答えの方（問3で7をお選びいただいた方）にお伺いします。

問3-3. 就労に対する意向等をお答えください。 [〇はひとつ]

1. 今後、就労する意向、希望がある
2. 今後も就労するつもりはない 差支えない範囲で理由をご記入ください
()

問4. お子さまの保育園への送迎についてお答えください。

- 1) あなたが送りに行く週あたりの日数は () 日 [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な日数を記入]
- 2) あなたが迎えに行く週あたりの日数は () 日 [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な日数を記入]
- 3) お子さまの登園時間は () 時 () 分 [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]
- 4) お子さまの降園時間は () 時 () 分 [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]

問5. お子さまと過ごす時間についてお答えください。

- 1-1) 就労している日に、お子さまと過ごす日あたりの時間は
多い日で () 時間 少ない日で () 時間
[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]
- 1-2) 就労している日に、お子さまと過ごす時間数を [〇はひとつ]
 1. いまよりも増やしたい
 2. いまよりも減らしたい
- 2-1) 休日に、お子さまと過ごす日あたりの時間は
多い日で () 時間 少ない日で () 時間
[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]
- 2-2) 休日に、お子さまと過ごす時間数を [〇はひとつ]
 1. いまよりも増やしたい
 2. いまよりも減らしたい

問 6. 自分のために過ごす時間についてお答えください。

- 1-1) 就労している日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間（自分のために過ごす時間）は多い日で（ ）時間 少ない日で（ ）時間
[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]
- 1-2) 就労している日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間数（自分のために過ごす時間数）を [○はひとつ]
1. いまよりも増やしたい
 2. いまよりも減らしたい
- 2-1) 休日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間（自分のために過ごす時間）は多い日で（ ）時間 少ない日で（ ）時間
[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]
- 2-2) 休日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間数（自分のために過ごす時間数）を [○はひとつ]
1. いまよりも増やしたい
 2. いまよりも減らしたい
- 3) 職務や家族から離れ、自分のために過ごす時間の使いみちをお答えください。 [○はいくつでも]
1. 趣味、娯楽
 2. ショッピング
 3. 喫茶、外食
 4. 学習、自己啓発、スキルアップ
 5. 運動、スポーツ
 6. 地域の活動への参加
 7. その他（ ）

問 7. あなたの所属する会社や組織等において、“ワーク・ライフ・バランス”についての取り組みがあればお答えください。 [○はいくつでも]

1. フレックスタイム制度や時差出勤制度を導入している
2. テレワーク制度や在宅勤務制度を導入している
3. ワークシェアリングを導入している
4. サバティカル制度（長期休暇取得制度）を導入している
5. 職務内容に直接関係しない学習活動や自己啓発活動に対する助成制度がある
6. その他（ ）

お忙しいなか、ご回答くださいまして、誠にありがとうございました。

ご回答いただいた調査票につきましては7月9日（月）までに園玄関に設置の封筒へご提出ください

『中野区「子ども・子育て会議」参考資料作成のためのアンケート調査』

配布対象： 中野区内の保育所に子どもを通わせている保護者
 配布数： 191通
 回答数： 89通
 回答期間： 2018年6月29日（金）～2018年7月9日（月）

問1. 以下の質問にご回答いただく方の、お子さまとの続柄をお選びください。 [○はひとつ]

1. 父親	36 件
2. 母親	53 件
3. その他	0 件

問2. お子さまの人数と年齢をお答えください。

・子どもは全部で

1人	38 件
2人	46 件
3人	5 件

・子どもの年齢はそれぞれ

全部で「1人」の人の平均	2.5 歳
全部で「2人」の人の平均	第二子 2.2 歳
	第一子 5.7 歳
全部で「3人」の人の平均	第三子 3.0 歳
	第二子 6.6 歳
	第一子 9.6 歳
	無効 1 件

問3. ご回答いただく方ご自身の就労状況をお答えください。 [○はひとつ]

1. 現在、フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	72 件
2. 現在、フルタイムで就労しており、育休・介護休業中である	8 件
3. 現在、パートタイムやアルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	1 件
4. 現在、パートタイムやアルバイト等で就労しており、育休・介護休業中である	0 件
5. 現在、自営業やフリーランス等で就労しており、育休・介護休業中ではない	6 件
6. 現在、自営業やフリーランス等で就労しており、育休・介護休業中である	0 件
7. 現在、就労していない	0 件
8. その他	1 件
	無効 1 件

現在、就労しているとお答えの方（問3で1～6をお選びいただいた方）にお伺いします。

問3-1. 勤務状況についてお答えください。

1) 週あたりの就労日数は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な日数を記入]	5.1 日
2) 日あたりの就労時間は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]	8.2 時間
3) 家を出る時間は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]	平均 7時51分
4) 帰宅する時間は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]	平均 19時11分
5) 休日の曜日は	
月	0 件
火	0 件
水	0 件
木	0 件
金	0 件
土	75 件
日	82 件
シフト制なので固定されていない	5 件
	無効 2 件
6) 勤務地は [○はひとつ]	
中野区内	8 件
中野区以外の都区内	70 件
都内市部	6 件
都外	5 件
7) 勤務地までの通勤時間は [数字を記入 ※1.5時間など単位を時間にして記入]	0.8 時間

問3-2. 就労している目的、理由等をお答えください。 [○はいくつでも]

1. 経済的な理由により	76 件
2. 自身のキャリアのため、自己実現のため	44 件
3. 就労することで心身の健康を得られるから	31 件
4. 社会的道義や義務感により	24 件
5. できることなら就労したくない	14 件
6. その他	3 件
⇒・父母いずれかが就労不可な事態となっても生活基盤を揺るがせないため	
・これからの子供を含めた人生のため	
・憲法第27条の規定による	

現在、就労していないとお答えの方（問3で7をお選びいただいた方）にお伺いします。

問3-3. 就労に対する意向等をお答えください。〔〇はひとつ〕

1. 今後、就労する意向、希望がある	0 件
2. 今後も就労するつもりはない 差支えない範囲で理由をご記入ください	0 件

問4. お子さまの保育園への送迎についてお答えください。

1) あなたが送りに行く週あたりの日数は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な日数を記入]	2.7 日
無効	1 件
2) あなたが迎えに行く週あたりの日数は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な日数を記入]	3.0 日
無効	0 件
3) お子さまの登園時間は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]	平均 8時15分
無効	3 件
4) お子さまの降園時間は [数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間を記入]	平均 17時57分
無効	5 件

問5. お子さまと過ごす時間についてお答えください。

1-1) 就労している日に、お子さまと過ごす日あたりの時間は

[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]

多い日で	3.6 時間
無効	6 件
少ない日で	2.0 時間
無効	5 件

1-2) 就労している日に、お子さまと過ごす時間数を [〇はひとつ]

1. いまよりも増やしたい	82 件
2. いまよりも減らしたい	4 件
無効	3 件

2-1) 休日に、お子さまと過ごす日あたりの時間は

[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]

多い日で	12.8 時間
無効	23 件
少ない日で	8.2 時間
無効	11 件

2-2) 休日に、お子さまと過ごす時間数を [〇はひとつ]

1. いまよりも増やしたい	59 件
2. いまよりも減らしたい	18 件
無効	12 件

問6. 自分のために過ごす時間についてお答えください。

1-1) 就労している日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間（自分のために過ごす時間）は

[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]

多い日で	1.7 時間
無効	0 件
少ない日で	0.4 時間
無効	2 件

1-2) 就労している日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間数（自分のために過ごす時間数）を [〇はひとつ]

1. いまよりも増やしたい	80 件
2. いまよりも減らしたい	4 件
無効	5 件

2-1) 休日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間（自分のために過ごす時間）は

[数字を記入 ※ばらつきのある方は平均的な時間数を記入/1.5時間など単位を時間にして記入]

多い日で	3.8 時間
無効	0 件
少ない日で	0.2 時間
無効	2 件

2-2) 休日に、職務や家族から離れたところで過ごす時間数（自分のために過ごす時間数）を [〇はひとつ]

1. いまよりも増やしたい	78 件
2. いまよりも減らしたい	3 件
無効	8 件

3) 職務や家族から離れ、自分のために過ごす時間の使いみちをお答えください。〔〇はいくつでも〕

1. 趣味、娯楽	53 件
2. ショッピング	38 件
3. 喫茶、外食	32 件
4. 学習、自己啓発、スキルアップ	23 件
5. 運動、スポーツ	35 件
6. 地域の活動への参加	1 件
7. その他	16 件
⇒ ・のんびり / ・病院 / ・美容院×8件 / ・マッサージ×2件 / ・家事 / ・昼寝、睡眠、休憩 / ・友人と会う、友人とランチ	
無効	1 件

問7. あなたの所属する会社や組織等において、“ワーク・ライフ・バランス”についての取り組みがあればお答えください。〔〇はいくつでも〕

1. フレックスタイム制度や時差出勤制度を導入している	46 件
2. テレワーク制度や在宅勤務制度を導入している	20 件
3. ワークシェアリングを導入している	3 件
4. サバティカル制度（長期休暇取得制度）を導入している	9 件
5. 職務内容に直接関係しない学習活動や自己啓発活動に対する助成制度がある	10 件
6. その他	4 件
⇒・小学3年生未満の子を持つ人に対して、始業時間のスライドができる	
・上記（の回答）は導入しているのみで、実際は全然使われておらず、何のためにあるのか意味を感じない	
区や国で実際どうなっているか、管理すべき	
・裁量労働制	
・仕事はゆるやかです	